

平成29年9月定例会 一般質問（概要）

平成29年10月6日
質問者：山本 大 議員

〈 山本 大 議員 〉

大阪維新の会府議会議員団の、山本 大でございます。

通告に従い、順次、質問させていただきます。

私は、平成27年4月の初当選より、障がい者の就労支援に取り組んでまいりました。

私の地元にある府立摂津支援学校や府立とりかい高等支援学校等へ伺う機会がある中で、教職員の方が熱心に生徒と向き合っておられることについては承知しており、お礼申し上げます。

学校現場で、保護者の方と話をさせていただきますと、子ども達の夢や将来に関する話題があがってきます。障がい者を取り巻く環境は年々良くなっているように思われます。しかしながら、自立への道、進路が開けているとまではいえません。そこで今回は、高等支援学校の教育課程について質問をしたいと思います。



1. 高等支援学校について

・教育課程の充実について

職業学科のある知的障がい高等支援学校が5校整備され、通学区域は大阪府内全域となっています。各校とも定員を定め、入学者選抜が実施されてお

り、常に定員を上回る出願があるなど、知的障がいのある生徒たちのニーズが高いと聞いています。

高等支援学校の科目は、主として、ものづくりや農園芸作業、食品加工、流通サービス、福祉関連などの職業に関するもので構成されており、卒業後直ちに就労に繋げることができるようなカリキュラムとなっていますが、多様化する生徒・保護者や企業のニーズに一層対応していくことが求められます。

先駆けとなった「たまがわ高等支援学校」は、平成18年度に開校して10年となり、高い就職率を誇っているものの、今後は、職業選択の幅を広げることができるような学習内容にしていくべきではないかと思えます。例えば、パソコンに向き合う時間を多くしたカリキュラムの編成など、障がいのある生徒たちも個々のニーズに合わせた学習ができれば、更に高等支援学校が魅力ある学校になるのではないかと思えますが、教育長にご所見を伺います。

〈教育長答弁〉

現在、知的障がい高等支援学校5校において、就職に向けて必要となる基礎的な力をはぐくむため、生徒のニーズに合わせた学習内容を選べるよう、生産技術科、食とみどり科、流通サービス科などの学科を設置しています。

たまがわ高等支援学校を設立し10年が経過し、社会情勢や企業ニーズは大きく変化しています。それに伴い、現在、同校では、ICTの活用やパティシエによる技術指導など、授業の充実に取り組んでいるところです。

今後は、障がいのある生徒の特性とニーズに応じた教育課程の編成についても、学校と具体的に協議してまいります。



2. 摂津市域の治水対策について

(1) 浸水対策について

〈山本議員〉

平成27年9月の関東・東北豪雨や、今年7月の九州北部豪雨など、近年、全国で想定を超える豪雨による水害が頻発しています。

大阪府では、平成22年6月に策定した「今後の治水対策の進め方」に基づき、施設規模を超える水害でも人命を守ることを基本理念として、河川改修やダム建設などのハード対策に住民自らの避難行動を支援するソフト対策を組み合わせた治水対策を進めていると聞いています。

私の地元の摂津市域は、淀川と安威川の堤防に囲まれた低い土地が広がり、過去から浸水被害に悩まされてきたところであり、浸水対策の重要性を感じています。

そこで、まずは、摂津市域の浸水対策の取り組みについて都市整備部長に伺います。

〈都市整備部長答弁〉

摂津市域の浸水対策については、時間雨量 50 ミリ程度の降雨への対策を行っており、大阪府が実施している河川改修と流域下水道の整備は完了し、現在、摂津市が、関連する公共下水道の整備を進めています。

さらに、河川の氾濫に対しては、時間雨量 80 ミリ程度の降雨に対応することを目指し、摂津市域を含め広範囲で甚大な被害が想定される安威川では、上流でのダム建設を進めるとともに、大正川、山田川などでは、ため池を活用した治水対策に取り組んでいます。

併せて、いざというときに、住民の皆さんが適切に避難していただけるよう、河川カメラによる防災情報の提供を進めています。

(2) 長期の浸水に対する取り組みについて

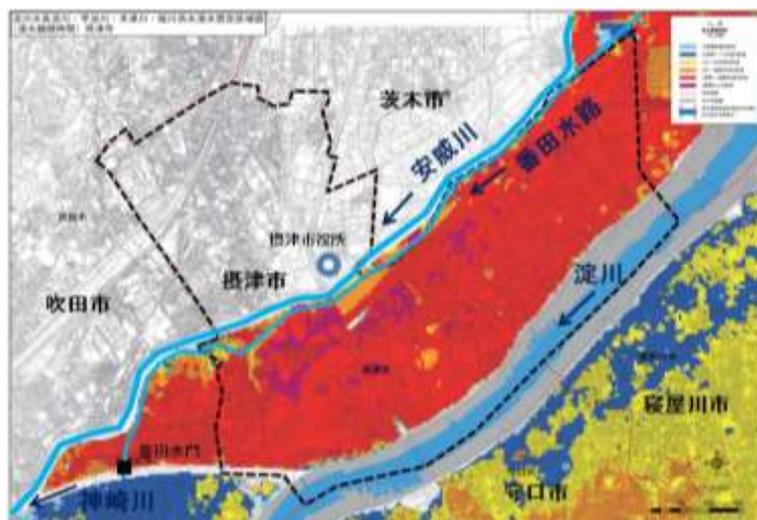
〈山本 議員〉

引き続き、浸水対策を着実に進めていただきたいと思います。

一方で、国が今年 6 月に公表した淀川の洪水浸水想定区域図では、1000 年以上に 1 回の豪雨で淀川が破堤した場合の、浸水の深さや浸水継続時間などが示されました。

今回公表された目的の一つは、危険な区域からの避難を推進するためと聞いていますが、摂津市域の淀川と安威川に囲まれた地域では、大部分が最大 2 週間程度も

浸水が継続することが想定されており、摂津市の地形的な特性を改めて認識しました。



「淀川洪水浸水想定区域図（浸水継続時間）（摂津市域を拡大したもの）」

※近畿地方整備局提供図を加工

淀川の洪水に対しては、淀川沿いの市町と国・府などで構成される「淀川管内水害に強い地域づくり協議会」において、住民の主体的かつ適切な避難行動や水防活動の強化、都市機能等の早期回復のための排水活動強化などの「淀川の減災に係る取組方針」が策定されたと聞いています。この取組方針の内容も踏まえながら、摂津市域における長期間の浸水に対して、関係者が連携して早急に対策を行うべきと考えますが、府としてどのように取り組むのか。都市整備部長に伺います。

〈都市整備部長答弁〉

摂津市が策定している地域防災計画では、浸水の深さや範囲を想定して避難方法を定めています。

このたび、1,000年以上に1度の降雨に伴い、淀川が氾濫した場合の浸水想定が示され、浸水に伴う長期避難の必要性が明らかになりましたことから、避難期間という新たな視点を加え、長期避難を想定した情報発信や、避難するための時間を考慮した避難勧告の発令などについて、国・摂津市とともに、速やかに検討してまいります。

加えて、少しでも早く浸水を解消するため、溜まった水を、適切に周辺河川に流すことが必要であり、今回の洪水浸水想定区域図では考慮されていないポンプ場や番田水門からの排水に加え、ポンプ車も活用した排水計画を、国・摂津市と連携して策定してまいります。

これらの取り組みを通じて、住民の方々の適切な避難行動を促進するとともに、社会経済活動への影響の最小化に努めてまいります。

3. 鉄道ネットワークの充実について

〈山本 議員〉

(1) 「グランドデザイン・大阪」における鉄道ネットワークについて

鉄道は、府民の暮らしを支える重要な交通インフラであり、人々の移動をスムーズにし、地域間の交流を拡大させることによって、大阪を大きく発展させるものです。

このため、行き止まりとなっている路線を延伸し、つないでいくことで、さらに利便性を高める必要があります。

「グランドデザイン・大阪」では、鉄道ネットワークの充実を掲げており、北大阪急行、大阪モノレール、中之島線などの延伸、私の地元では、地下鉄8号線延伸など、さまざまな路線が示されています。

そこでまずは、「グランドデザイン・大阪」に示す鉄道ネットワークの考え方について住宅まちづくり部長に伺います。

〈住宅まちづくり部長答弁〉

「グランドデザイン・大阪」は、2050年を目標とする大都市・大阪の都市空間の姿を分かりやすく示すため、大阪らしいポテンシャルを持つ象徴的なエリアと、インフラの活用・整備などについて、大きな方向性を掲げたものです。

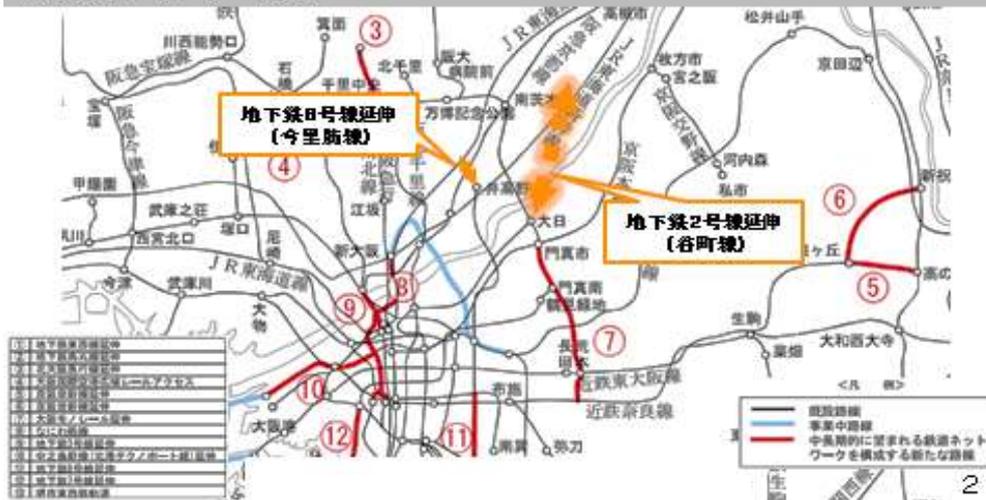
鉄道インフラについては、放射環状ネットワークの形成や、広域拠点へのアクセシビリティ向上という考え方のもと、中長期的な視点に立って、新たな路線や既存路線の延伸について、鉄道ネットワークの充実としてお示したものです。

〈山本 議員〉

(2) 地下鉄延伸の具体化について

現在、北大阪健康医療都市（愛称：健都）では、国立循環器病センターを中心とするまちづくりが進められていますが、私は、井高野駅が終点となっている地下鉄8号線（今里筋線）を阪急正雀、JR岸辺まで延伸すれば、より交通利便性が高まると期待しています。

◇鉄道ネットワーク図



※近畿運輸局 平成16年近畿地方交通審議会答申8号（付図2）をもとに作成

また、地下鉄2号線（谷町線）については、平成元年の運輸政策審議会答申において、高槻方面への延伸の必要性について検討すべき路線として位置付けられていましたが、その後、平成16年の地方交通審議会答申では、位置づけがなされませんでした。

これら地下鉄路線の延伸は、摂津市はじめ、北大阪地域全体の発展に寄与するとともに、大阪の鉄道ネットワークを充実する路線であると考えますが、これらの鉄道延伸を一步でも前へ進めるには、具体的にどのような取り組みを行う必要があるのか、また府は、どのような役割を担うのか、都市整備部長に伺います。

〈都市整備部長答弁〉

鉄道延伸の具体化には、将来にわたって採算性が確保されることが不可欠であるとともに、運行を担う鉄道事業者が主体的に検討を行うことが必要です。

地下鉄8号線及び地下鉄2号線の延伸については、これまで需要予測などの検討が行われていますが、現時点では、運賃収入により鉄道の運営費を賄う事が難しく、鉄道事業者が積極的に取り組める状況に至っていません。

このため、地元市が更なる沿線まちづくりや拠点づくりに関する具体的な検討を行い、より一層の需要創出策を講じる必要があります。大阪府としては、地元市の取り組みに対し、必要な助言や検討への協力などを行ってまいります。

4. 府道十三高槻線について



〈山本 議員〉

(1) 正雀工区の現状について

(2) 大阪中央環状線との交差部の対策について

私の地元の摂津市を東西に通る都市計画道路十三高槻線は、大阪市から高槻市までを結び大阪の放射軸を形成する重要な幹線道路です。

現在整備が進められている正雀工区は、摂津市域はすでに完成しており、吹田市域において事業を進められています。現在の正雀工区の進捗状況について、都市整備部長に伺います。

また、この正雀工区が完成すると、大阪市から大阪中央環状線方面の交通がスムーズになりますが、一方で、中央環状線に流入する車両が増加することとなり、その交差部ではさらなる渋滞の発生が懸念されます。

この交差点では、中央環状線を左折、つまり北行きにしか進めず、北東の高槻方面に向かうには、十三高槻線を利用できないため、周辺的生活道路へ迂回する車両が増えてくると考えられます。

この点については、平成27年9月議会で質問したところですが、あらためて、この十三高槻線と大阪中央環状線との交差点の対策について、どのように取り組んでいくのか、都市整備部長に伺います。



〈都市整備部長答弁〉

都市計画道路十三高槻線の正雀工区については、現在、阪急京都線との立体交差点を含む約650mの区間において用地買収を進め、現在、約92%が買収済みであり、残る箇所についても、早期に合意が得られるよう交渉を続けていきます。

現在、用地買収を終えたところから、順次、下水道等の地下埋設物の移設を進めており、来年度から、阪急京都線の送電線の移設や、鉄道を跨ぐ橋梁の整備工事に着手していきます。

また、十三高槻線と大阪中央環状線との交差点については、国による最新の交通量調査結果をもとに、今年度、詳細な交通量予測や、正雀工区が完成した際の交通処理方法について検討を行い、来年度以降、警察をはじめ関係機関との協議を進めていきます。